



SANZUI vol.06_2015 winter



特集
うたう





SANZUI vol.06_2015 winter

CONTENTS

COVER

Photo / Ko Hosokawa

「SANZUI」は、実演芸術のあらゆる魅力を伝えます。
実演芸術に触れた感動が水の流れるように
人々の身体の中に深く浸透し、潤し、育みますように。
そんな思いを込めました。

<http://www.cpra.jp/sanzui/>

(バックナンバーの閲覧・プレゼントの応募はこちらから)

公益社団法人 日本芸能実演家団体協議会
実演家著作隣接権センター(芸団協CPRA)

02-11

特集 うたう

いきものがかり

初音ミク

国本武春

幸田浩子×中鉢聡

12-13

「うたう」実践編

～ヴォーカルレッスン集中講座～

身近な「うたう」

コラム「日本語を歌・唄・謡う」

14-15

美匠熟考

虚無僧がかぶる天蓋
齋藤秀雄の指揮棒

16-17

カンゲキのススメ「ミュージカル」

18-19

裏舞台という名の表舞台
「箏製作職人」國井久吉

20

若き実演家の未来 / 藤舎推峰

21

SANZUI ぱっしょん
YHMF

22

エッセイ

竹中統一

24-29

ロングインタビュー

小田和正



特集

うたう

私たちは、歌うことで生きている。

さまざまな人生と歌でつながる人がある。

うなることで、言葉を遙か遠くまで伝えられる人がある。

自分自身という楽器から生の歌声を奏でる人がある。

次元を超えて、愛のメッセージを発信する人がある。

ジャンルも表現も違うけれど、みな、歌うことを心から楽しんでいる。

みな、歌うことで生きている。

Text / Makoto Hasegawa(P.2-5), Tomonori Shiba(P.6-7), Masako Yamaguchi(P.8-9), Naoko Murota(P.10-11)

Hair & Makeup / Ryousuke Hasegawa(P.2-5)

特集

うた た う の



いきものがかり 音楽グループ

いきものがかりは本当に歌を大事にしているグループである。自己表現、自己アピールする以前に、いい歌を届けることに集中している。水野良樹さんと山下穂尊さんが歌を作り、吉岡聖恵さんが歌うのが彼らの基本的なスタイルだが、もともと水野さんと山下さんの路上ライブからスタートして、“歌好き”3人が集まったグループだ。歌うことの魅力について彼らはこう語る。

「私は家族が多くて、曾おばあちゃんも一緒に住んでいたんですが、大人ってすぐ歌を教えたがるんですよ。雨が降ったら『雨』。赤い靴を買ったら『赤い靴』。身近なところにいつも歌があった。昔のテープを聴くと、私が家族の前で歌うと、すごく褒めてくれる。歌うのも楽しかったんですが、反応があるのが子供ながらにうれしくて」(吉岡)

「高校で路上ライブを始めたんですが、

とにかく歌いたって感じでした。カラオケはお金がかかるけど、路上ならタダだし(笑)。自分達の遊び場を見つけたみたいな感覚。しかも調子のいい時は人が聴いてくれる」(山下)

「単純にそっぽ向いていた人達が僕らの歌で振り返ってくれたのがうれしかったんだと思います。根本的には3人ともさびしがり屋で褒めてほしい気持ちが強い。頑張って歌ってたら集まる人が増え

歌は作った時点、歌った時点が完成ではなくて、
聴いた人が完成させるもの

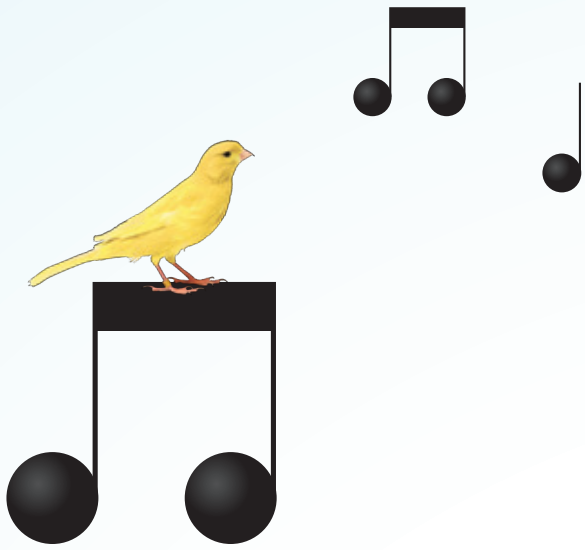


Photo / Ko Hosokawa

て、その流れの先に今がある。ミュージシャンとしてはできないことだらけの3人なのですが、歌によって人と出会い繋がってきた。人間同士だと性格の違いで限界がありますが、間に歌があると、考え方の違う人、会ったことのない人とも繋がっていける」(水野)

幅広い層からの支持は路上での経験が大きいようだ。

「路上って、特定の層だけが集まることはほぼないんですよ。カッコいい男子2、3人でやってたら、女子が集まるかもしれないけど、普通は子供連れやサラリーマン、様々な人がいる。みんなを立ち止まらせるにはどうするか、かなり考えました。男女いるのも重要で、女性ボーカルを探すことになり、近所にいたぞと(笑)」(山下)

「路上って音楽をやる場所じゃないし、みんな用事があって歩いてるわけだから、押しつけがましくなく、いかに立ち止まらせるかが難しい。吉岡が元気よくて、男子ふたりが静かにしているのが絶妙なバランスで(笑)。場の空気を読む訓練にもなった。この客層、この人数なら次はこの曲って互いに言わなくてもわかるようになりました」(水野)

さりげなくそばに寄り添ってくれるのが彼らの歌の魅力のひとつ。吉岡さんのボーカルも強烈な個性を主張するわけで

はないのに、芯があって、確かな存在感がある。

「多分、強烈な個性がないという強烈な個性なんです。バラエティーに富んだ曲作りを心がけているんですが、新たな曲調のものでも吉岡が歌うことでいきものがかりになる。そこに助けられているところはありますね」(山下)

「吉岡のモノマネをする芸人さんが少ないのは誇りでもあって。多分、クセをつかみづらいんでしょうね。彼女はクセのある歌い方もできるし、器用なんです。そこに逃げずに、歌を伝えることに専念していると思います」(水野)

彼女自身はどんな意識で歌っているのだろうか？

「レコーディングでまず歌の物語を掴むことに集中するんですが、ライブという空間に入ると、また違う感じになる。楽しい曲で笑顔になってくれたり、悲しい曲ではその表情が変わったり。ライブって不思議だなと思います」(吉岡)

NHK全国学校音楽コンクールの課題曲「YELL」、NHKロンドン2012放送テーマソング「風が吹いている」、全国高校サッカー選手権大会応援歌「心の花を咲かせよう」など、大きな期待を背負いつつ名曲を生みだしてきたことからグループの底力が見えてくる。

「出会いに助けられましたね。僕らは路

上ライブから始まったわけで、社会と関わっていくグループだと思うんですよ。

違う分野で頑張ってる人たちとリンクできることを探して、外と結びつくことで良いものができるグループだし、そういうことをやっていくべきだと思っています」(水野)

「ゼロから曲を作る2人の産みの苦しみを見ているからこそ、歌を信頼して取り組めるんですが、タイアップはさらにいろんな人の力を借りて生まれてきているので、そこでもまた奮い立たせてくれるものがあります」(吉岡)

いきものがかりの歌の根底には人との繋がりがあって、こんな言葉からも彼らの歌への姿勢が見えてくる。

「MCでもよく言うんですが、曲は作った時点では完成してなくて、聴いてくださる皆さんが完成させるものだと思います。歌は聴かれないと歌にならないですから。3人しか知らなかった曲が遠い街の女子高生の恋や誰かの人生に繋がって、願わくばプラスの方向に変わってくれることに喜びや生き甲斐を感じさせてもらっています」(水野)

PROFILE 小学校時代の同級生とともに生き物係をやっていた水野良樹と山下穂尊が地元厚木・海老名で路上ライブを始め、その後2人の同級生の妹である吉岡聖恵が参加して、1999年に結成。2006年に「SAKURA」でデビューし、幅広い層から支持を受ける。2014年12月24日にメジャーでの7枚目のアルバム『FUN! FUN! FANFARE!』をリリース。メジャーデビュー10年目を迎える2015年3月からは全国アリーナツアーも予定されている。



吉岡聖恵: 黄色ニット ¥12,000 ドゥヴィネット/アバハウス エル エル 銀座マロニエゲート店、チェックパンツ ¥14,000 And A/And A フラッグス新宿店、ネックレス ¥6,900 mimis
山下穂尊: シャツ ¥25,920 ETHOSENS/ETHOSENS of whitesauce、パンツ ¥34,560 ETHOSENS/ETHOSENS of whitesauce、ベスト ¥44,000 DIET BUTCHER SLIM SKIN/Venom TOKYO
水野良樹: 迷彩ニット ¥20,000 SWG BLACK PLATINUM/アドナストミュージアム、パンツ ¥13,000 And A/And A フラッグス新宿店

「いる」と「いない」、リアルとバーチャルの境界線が溶けているかのような、不思議な感触がそこにはあった。1万人以上の観衆が汗まみれになってライブを楽しんでいる。その視線の先には、4人の演奏者と透明スクリーンにCGで映し出された1人のキャラクター、初音ミクがいる。もちろん、その場の全員は目の前で歌っているのが映像のキャラクターであることを知っている。しかし、実際にライブを体感するとその生々しい実在感到に驚かされる。かつてはオタク文化のイメージとともに取り上げられることもあった初音ミクだが、いまや中高生の女子にも浸透。キャラクターは幅広く愛されファン層も広がっている。

「初音ミクを取り巻く創作文化の今を発信する」というコンセプトのもと、2回目を迎えた今年、東京・大阪の2か所で開催されたイベント「初音ミク『マジカルミライ 2014』」。そのプロデューサーを務めたクリプトン・フューチャー・メディア株式会社（以下クリプトン社）の関本亮二さんは「バンドの生演奏と一緒に歌っていることが大きい」と語る。

「やっぱり隣に人間がいるということが大事なんです。映像だけだと、どうしても画面を観ているのと同じになる。それだとすぐに飽きてしまう。でも実際にバンドと一緒にライブをすると、初音ミクがその場に本当にいるんじゃないかと錯覚してしまうような臨場感が生まれる。お客さんも、普通にアーティストのライブを観ているのと変わらない感じで観ています。ミクが『今日は会えてよかった』と語りかけるのを観て涙を流している人もいます」

そもそも初音ミクが登場したのは2007年のこと。ヤマハが開発した歌声合成技術「VOCALOID」を用い、コンピュータで誰もが簡単に歌を作り出すことができる「ボーカロイド・ソフトウェア」として彼女は世に現れた。開発元のクリプトン社も含め、その時点でこんな熱狂が生まれる現在の風景を想像した人は誰もいなかったはずだ。

ムーブメントを支える担い手となったのは、初音ミクを歌わせて曲を作り動画投稿サイトに発表した「ボカロP」と呼ばれる数々のミュージシャンだった。さ

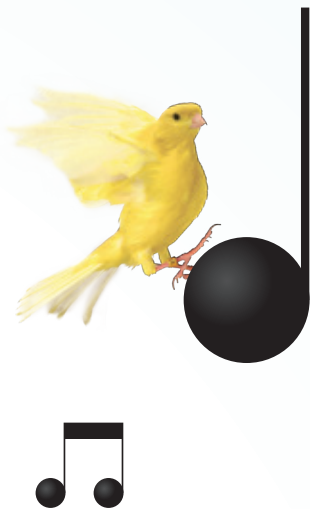
らには、曲に刺激を受けたイラストレーターが初音ミクの絵を描き、好きな曲にミュージックビデオをつける映像作家も登場するなど、プロとアマチュアの垣根を越え様々なフィールドのクリエイターたちが初音ミクを媒介にこぞって創作を繰り広げた。当初はネット上だけにあったその熱気も、ライブイベントが行われることで目に見える形に広がっていった。

「キャラクターとして好んでいる人もいますが、実際にソフトを使っているうちに、自分がプロデュースしている感覚を得られるので、『初音ミクをどう魅せるか?』と本気で考えるようになって、次第に感情移入していく人も多いです」

無数のクリエイターに支えられ広まっていった初音ミク。聴き手と作り手が渾然一体となった場が生まれたことが、その歌声への愛着の秘密となった。そして、その熱気は、いまや海外にも広がってきている。2014年にはイベント「HATSUNE MIKU EXPO」がインドネシアやアメリカで開催された。21世紀に生まれたデジタルな「歌」が、日本発の最先端のポップカルチャーとして世界を席卷しつつあるのだ。

初音ミク

バーチャル・シンガー



リアルとバーチャルの境界を越え、世界を席卷する新しい歌の形



PROFILE バーチャル・シンガー。ヤマハが開発した歌声合成技術VOCALOIDを用い2007年にクリプトン・フューチャー・メディアが歌声合成ソフトウェアを発売。そのパッケージイラストとしても注目を集める。発売後、多数のユーザーによって彼女が歌う楽曲が作られた。公式設定によれば「16歳、身長158cm、体重42kg」。

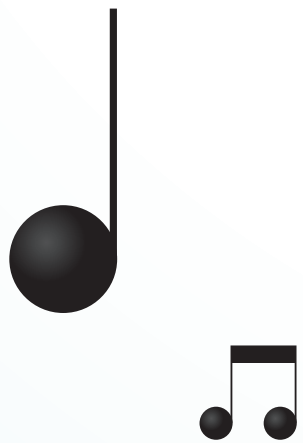
illustration by MONQ ©Crypton Future Media, INC. www.piapro.net **piapro**

国本武春

浪曲師



浪曲は「うなり」だ！シャウトだ！！



PROFILE 1960年、千葉県生まれ。両親共に浪曲師。ギターなどの演奏法を取り入れて独自の三味線奏法を生み出し、ロック、ブルースなど様々なジャンルに忠臣蔵や民話などを組み込んだオリジナル作品を次々と発表。2000年には宮本亜門演出ミュージカル『太平洋序曲』に出演し、二度の米国公演参加。03年文化庁文化交流使として米国イーストネシー州立大学に派遣。04年ブルースバンド結成など、ライブ、CD、ラジオ、テレビ、舞台等と多方面に活躍。第50回文化庁芸術新人賞、芸術選奨文部大臣新人賞、平成13年度国立演芸場花形演芸大賞受賞。

浪曲師国本武春

弾く手が見えない程の速弾きで三味線の名手としても知られる浪曲師国本武春さん。三味線を弾きながら自由自在に歌い語り、浪曲以外にもミュージカルや芝居、ロック、ブルースなど幅広く活躍するマルチな芸人、言わばスーパー浪曲師である。

「昭和30年代くらいまでは非常に人気のあった浪曲ですが、今や廃れつつあります。その浪曲のイメージを変えたいということもあり、様々なジャンルに挑戦しています」

そう語る国本さんの太く、通りの良い声こそ浪曲の特徴、「うなり」を思わせるものだ。

「修行を積んでこういう声になるんです。わざと物売りのような『胴声』を出すんですが、ロングトーンの読経のようでもあり、海外でも通じるシャウトだと思いますね。拡声器のない時代に始まった芸です。普通の声だと遠くまで聞こえないけれど、胴声だと遠くまで聞こえる。

その上で、お坊さんの説教のように、『人間というものはね』という教訓的な、お前に言われたくないよ、といった内容を語るわけです(笑)。だから声でもっとも

らしく、面白い話を節に乗せて人々の心を掴み、『うなり』で遠くに伝え、胴声でうなると、『浮かれ節』とも呼ばれたくらい聴衆もいい気持ちになった。浪曲は一に声、二に節、三に啖呵と言われるのはこのためでしょうね」

そもその起こりは、「お坊さんのような恰好をした」しゅげんじやのりとさいもん修験者が、祝詞(祭文)を唱え、お布施をもらったことに端を発するらしい。

これが門付け芸に移り、浪曲になった。関西に起こったので、関東では浪花節とも言う。

「明治になり、修験者が使っていたほら貝や錫杖しやくじょうの代わりに、三味線で抑揚をつけるようになったのですが、それまであった三味線の音楽ではなく、好きなように作るのが浪曲。ですから、とても多彩で、縛りがない。受ければよいのです。でも、この型のない自由こそが、演ずるのにも伝承するのにも難しく、浪曲が廃れた原因の一つかもしれませんね」

さらに浪曲はアドリブの占める割合が大きいので伝授しにくく、弟子も取りにくい。

「言わば一代限りの芸ですが、そこが潔いとも思います」

そんな自由自在さこそが浪曲の大きな魅力の一つであることは間違いない。

さて、それでは、浪曲の屋台骨とも言える「うなり」は「歌」なのだろうか。

「浪曲はそもそも語りなので、『うなり』は言葉が聞き取れないといけない。だから歌と違って漂わないんです。根が生えている。三味線がべんべんと入るだけで、声の力でぐっと人心を掴み、酔わすわけですから、声の力は浪曲そのものです。その上、決まった旋律もなく、楽譜もない。アドリブの連続です。やはり、歌うことではないという気がしますね」

なるほど「うなり」は「うなり」、「うたう」とは別の表現形態なのだろう。しかしながら、今回のテーマ「うたう」を通して「うなる」を再考すると、改めて歴史ある「うなり」文化の魅力が見えてくる。かつて大人気だった「うなり」が、国本さんらの活動によって、現代の私達の心をも掴み始めている。

「一生のうちに一つでも、このために演ってきたと思える浪曲を作り、演じたいですね」

スーパー浪曲師国本武春の「うなり」の快進撃は続く。注目したい。

幸田 浩子

オペラ歌手(ソプラノ)

中 鉢 聡

オペラ歌手(テノール)

「生
の
歌
声」
の
感
動

「体」という楽器から紡ぎ出される



1000人を超える観客が入る大ホールの舞台上で、マイクなどを一切使わず、自分の生声だけで歌い演じるオペラ歌手。そんなオペラ歌手には、特別な訓練を受けた、日常とはかけ離れた世界の住人というイメージがある。ソプラノの幸田浩子さんとテノールの中鉢聡さんは、日本のオペラ界を背負って立つ存在。世界的に有名なイタリア・オペラから、現代の日本人作曲家が書いたオペラまで、数々の作品に出演し続けるおふたりは、まさに「特別な世界の住人」といえる。ほっそりとした容姿と笑顔が愛らしい幸田さんは、小学校の音楽の先生をしていたお母さんとコーラスを愛好していたお父さんの元に生まれた。「生まれた時のオギャーという声が高く、周りからこの子は歌手になるかもしれないね、と言われたそうです。その日あった出来事を歌うのが好きな子供時代でした。そのままごく自然に歌手になって今がある、という感じです」

いわば一種のサラブレッドである幸田さんに対して、音大に入るまでオペラを観たこともなかったという中鉢さんの少年時代はどうだったのだろうか。

本やアジアが舞台になっているものなど、実に多彩だ。オペラ歌手は、そんな様々な時代、様々な物語をもった人物を演じるために、いつもニュートラルな状態にいることが必要なのだとおふたりはいう。だからこそ、あまり「これをしてはいけない」「あれはしなければならない」という制約を課すより、自然体を心がける方がよいのだそうだ。

ひとつのオペラ公演のために、歌手たちに用意された練習期間はおよそ40日。その間に歌詞を覚えることから始まり、役の性格や音楽内容など、実に様々な要素について考え稽古を重ねる。しかし本番の時は「すべてを忘れて舞台上に上られるのがベスト」(中鉢さん)。劇場という空間で、その場の空気やお客様の反応を体全体で感じながら歌い、演じる。オペラの舞台を観ていると、彼らがまるで全身から声を発しているような感覚にとらわれることがある。空気の振動を通して伝わる声のエネルギーが、聴き手の体を包み込むのだ。それは、どれほど技術が発達しても、その場でしか味わえないもの。オペラ歌手が届けているものは、まさに「生の歌声」がもたらす感動なのである。



PROFILE 幸田浩子 東京藝術大学首席卒業。同大学院、オペラ研修所を経て渡欧。数々の国際コンクールで上位入賞後、シュトゥットガルト歌劇場、ローマ歌劇場等欧州の名門歌劇場へデビュー。2000年ウィーン・フォルクスオーパーと専属契約。国内では新国立劇場、二期会の舞台で主役級を演じる他、全国各地でのリサイタル、BSフジ「レシビ・アン」でのMCなど多彩な活動を展開。今後は2月ベトナムにて『竹取物語』かぐや姫、4月7thCDのリリース、7月二期会『魔笛』パミーナなどが予定されている。第14回五島記念文化賞オペラ新人賞、第20回エクソンモービル音楽賞洋楽部門奨励賞受賞。二期会会員。

中鉢聡 東京藝術大学卒業。日本オペラ振興会オペラ歌手育成部第11期在籍中の1990年、秋田県制作の郷土オペラ「ねぶり流し物語」でデビュー。1992年ロッシーニ国際オペラコンクール入選。1993年度文化庁芸術家国内研修員。1995年「椿姫」のガストン役に藤原歌劇団のデビューを飾る。1996年イタリア留学。帰国後はオペラに加えオーケストラとの共演でソリストとしても活躍する他、サッカー親善試合で国歌を歌うなど注目を集める。新国立劇場には開場記念公演より数多く出演し、3月28、29日には「袈裟と盛遣」に出演。藤原歌劇団団員。



2014年 オペラ『春琴抄』

「うたう」実践編

ヴォーカルレッスン集中講座

アニソンが大好きで1人カラオケにもよく行く、でも歌に自信はない…。どうしたらうまく歌えるようになる？
宮城貴哉さん(28)が山野楽器の音楽教室ヤマノミュージックサロン新宿店での3回(各30分)の集中レッスンに挑戦!

Lesson 1

初回は正しい姿勢と息の使い方に終始。足を肩幅に開いて、お腹を突き出さず、重心は前の方に。息を吐ききって、お腹に吸い込む。そして、お腹からゆっくり均等に吐き出す。まずは腹式呼吸の基本が大事で、そこに声をのせていきます。「あああああああ〜(ドレミファソファミレド)」



Lesson 2

腹式呼吸のおさらいと、発声練習。お腹からの大きな声が出て、少しずつ音域も広がってきます。そして、アニソンの王道「残酷な天使のテーゼ」に挑戦。早速1フレーズ目からダメ出しが。『『ごんこく』の『ご』はもっとざらついた感じで。』『『わたし』も聞こえづらいので『うわたし』など、発音に気をつけることで、全然聞こえ方が違ってきます。長いフレーズは、特にお腹から息を吐いて〜。しっかりと声が出て来るようになりました!



Lesson 3

まずは基本の呼吸と発声練習。正しい姿勢のキープもまだまだ難しく、レッスン後は足がつるようです。「残酷な天使のテーゼ」は、発音とお腹の使い方に細かい指導を受けながらも、通して歌えるようになりました。集中レッスンを終えた宮城さんの感想は?「毎回レッスン後は、軽い運動をしたような感じ。お腹からの発声で喉の調子がよくなって驚いた。カラオケでも今まで声が出なかった曲も歌えるようになりました!」稲垣先生、ありがとうございました。



ワンポイントアドバイス by 稲垣準子先生

- ♪ 何事も土台が大事。発声がきちんとできると、そこに音をのせていきます。
- ♪ 音域も発声練習で広がっていくもの。身体が委縮すると出なくなるので、下あごを開いて口をあけることと、お腹の使い方がポイント。
- ♪ 速い曲は歌詞をゆっくり読んでから。歌舞伎の「外郎売」も滑舌をよくするのに最適です。
- ♪ 気持ちよく歌うとそれが伝わるもの。原曲を聞きすぎると癖ももらってしまうので、自分にあった歌い方をものにしましょう!

*ヴォーカルレッスンのお問合せはヤマノミュージックサロン新宿(Tel: 03-5909-2137)まで

日本語を歌・唄・謡う

文：中山一郎(元大阪芸術大学教授)

前々から「日本語をうたう」ということについて疑問を感じてきた。例えば、ソプラノ(いわゆる、洋楽)に接しても、“これが日本語なのだろうか……!?”。一方、古来、「日本語をうたう」ことを営々と培ってきた伝統芸能(いわゆる、邦楽)の世界でも、“何と洋楽的な……!?”、等々。前者の違和感の根底には、「洋楽的唱法」という異文化を全く無批判に直輸入してしまった、明治初期の「洋楽受容期」以来のこの国の誠に歪な音楽教育の歴史があると思われるし、また後者には、コトバと同様に、音曲も時代と共に変化せざるを得ないが故の、「伝統」というもののジレンマがあるものと思われる。

ならば、日本語をどのように「うたう」のか…? この疑問を解くためには、現在、日本語がどのように“歌・唄・謡”われているかを知ることが先決、と考えるようになった。が、世の中には邦・洋楽を問わず多数のCDやDVDなどが存在するが、それらは演目(即ち、歌詞)が各々異なるが故に、

この疑問を解く鍵にはなり得なかった。そこで、同じコトバ(共通詞)／かえていろうづくやまのあさは／を用意し、日本の「声の音楽」の殆ど全ての歌唱分野(32分野)の79名(うち、人間国宝16名)に、各分野の典型的な歌唱表現法でこの共通詞を「うたい分け」して貰った。収録には6年を要したが、こうして一般公開したのがDVD全集『日本語を歌・唄・謡う』である。歌詞が同一であるが故に、各々の歌唱表現法の同・異が一目瞭然に把握していただけのものと自負している。

全600チャプタに及ぶこのDVD全集が「声のテキスト」として次世代に受け継がれれば、と願っている。



HPで狂言・茂山千作師のいろんな／かえていろうづく…／を、ぜひ聴きくらべてみてください!
<http://www.adpopolo.com/jvoicesdvd/>

PROFILE 1940年金沢市生まれ。工学博士。専攻は音楽音響学・映像民俗学。DVD全集『日本語を歌・唄・謡う』(2008年アド・ポポロ発行)で平成23年度日本音響学会功績賞受賞。

身近な「うたう」

総務省の「社会生活基本調査」(2011年)によると、カラオケ人口はおよそ3,307万人、実に4人に1人がカラオケに足を運んでいる。一方、合唱や声楽を行うのは318万人と10分の1。だが、年間の平均日数はカラオケ13.2日に対し、合唱や声楽は55.1日、週に1回以上定期的に練習する割合だ。それぞれの楽しみ方はいかに?

KARAOKE

カラオケ



「宴」という言葉は、「歌と酒」の意味であるという説もあるくらい、日本人にとって、歌と宴会は切っても切れない関係。端唄や小唄、さらには演歌を、三味線や流しのギターをバックに歌っていた盛り場文化は、70年代以降カラオケが一挙に浸透する土台となったのだろう。そして貨物用コンテナボックスを改造したカラオケボックスが、岡山県で誕生した85年以降、カラオケは酒場に限らない、子供からお年寄りまで誰でも手軽に歌を楽しめるレジャーになった。

カラオケは楽しいだけでなく、健康にもいい。(株)第一興商が、自社カラオケシステムを用いて60歳以上の男女44名に3曲歌唱してもらい、その前後に唾液検査、唾液採取、アンケート調査を行ったところ、歌好き・歌嫌いにかかわらず、歌うことで唾液量が増え、ストレスホルモンが減少、前向きな気分になり、気分・感情が改善されたそう(出典：日本レコード協会機関誌『The Record』vol.659)。

このようなカラオケの効果に着目し、国連の友Asia-Pacificでは、東日本大震災被災地の仮設住居を、カラオケカー帯同で巡回診療するプログラムを進めている。カラオケを歌うことで住民同士のコミュニティづくりやストレス発散に役立っているという。歌うことが健康や長生きにつながるなんて、歌好きの日本人にはたまらない話ではないか。

写真提供：(株)第一興商

CHORUS

合唱



歌は身体が楽器。大勢のできる音楽として、小中高生時代にはクラスで合唱した経験も多いのでは?そして、部活が盛んな学校では、毎年コンクールに挑戦することもあるだろう。昭和7年から81回を数えるNHK主催の合唱コンクール「Nコン」は、小学校、中学校、高等学校の部門で現在は合計約2,600校が参加する。各ブロックとシード枠の11組で開催される全国コンクールをのぞいてみると、みんな少し緊張しながらも懸命に歌っていた。

全日本合唱コンクールを主催する全日本合唱連盟に加盟するのは、全国で5,155団体。中学・高校はそれぞれ約800団体だが、一般は約3,000団体。社会人になってからも合唱を楽しんでいる人がとても多いのが見て取れる。

社会人の合唱団体では、「この場があることが奇跡」と感謝する思いも。2013年の全日本合唱コンクールで金賞(一般部門)となったお江戸コラリアーズは、毎週末4時間ほど練習を組んでいる。ただ、約80名で本番に臨む予定でも、練習に毎回全員が揃うことはなかなか難しい。発足から15年、指揮者もメンバーもみんな仕事を持ちながら参加し、金賞を取るまでになったのは、練習時に誰もが音楽面でも意見や提案を言えるフラットな関係と、練習後の飲み会。学生時代に合唱部にいたメンバーがほとんどで、「合唱を続けたい」という思いを持つ仲間と「好きな音楽がやれる」のが魅力のようだ。

SANZUI vol.06_2015 winter 12-13

川瀬順輔

(琴古流尺八宗家 三世)

Kawase Junsuke

こむそう

虚無僧がかぶる

てんがい

天蓋

江戸時代、尺八は^{ふけしゅう}普化宗の法器とされ、虚無僧のみ演奏を許されていました。各地に虚無僧寺があり、それぞれ独自の伝承曲がありました。武士しか虚無僧になれず手形なしで関所を通れたことから、隠密的役割を担っていたとも言われています。明治に入り廃宗されましたが、^{きんこ}琴古流始祖、初代黒沢琴古が各地の楽曲をまとめ体系化していたことで、尺八は広く親しまれるようになりました。東日本大震災が起きた年の仙台七夕まつりでは鎮魂の気持ちを込め、100余人の尺八奏者が虚無僧姿で演奏しました。その後毎秋平泉で虚無僧行列をし、毛越寺本堂にて献笛しています。西洋音楽に慣れた耳にはむしろ新しく感じるようで、海外でもZEN MUSICと称し大勢の愛好家があります。とはいえ、尺八は日本古来の宗教観や暮らしの中から生まれたもの。日本人だからこそ表現できる世界があると思います。



協力：琴古流尺八宗家竹友社

Number:011

Large wicker basket hat

中丸美繪 (伝記作家)

Nakamaru Yoshie

齋藤秀雄の
指揮棒

四拍子は正方形というような指揮がまかり通っていた時代に、その概念を破ったのが齋藤秀雄である。彼は指揮には七つの基本運動があり、技術が存在すると世界で初めて示した。それは棒だけを見れば指揮者の意図が楽員に伝わる動きで、仏語が不得手な小澤征爾が渡仏直後にコンクールで優勝できたのも、この技術があればこそだった。

齋藤のレッスンは厳しく褒めることもない。一振り棒を下ろしただけで「弾けねえよ。そんな甘い棒じゃ」と罵声が浴びせられ、眼鏡が飛んできてくる。休めるのは親が危篤か、38度以上の熱の時。かといってこの大先生が指揮をするとすると、極度のあがり性のために時々どこを指揮しているのかわいからなくなってしまう。アクが強いから厭われもしたが、その音楽への情熱と知識を求めて弟子は後を絶たなかった。そんな齋藤の人生が凝縮されている指揮棒である。



民音音楽博物館所蔵

Number:012

Baton



音楽だけでも、ダンスだけでも、お芝居だけでもなく、全部一度に楽しめるのがミュージカル。いわばエンターテインメントのいいとこどりです。「突然歌いだすのはリアルじゃない」と言われることもあります。みなさんも嬉しいとき、元気になりたいとき、思わず歌を口ずさみたくなりませんか？気持ちを歌で表現するのは、実は自然なことなのかも。革命に燃えるパリ、サバンナの動物たちの王国、海底にひろがる魔法の世界……時代や場所の隔たりや、夢と現実の境も飛び越えられちゃうミュージカル。一度観てみませんか？

このドキドキ、まさに「次元が違う」！

「2.5次元ミュージカル」ってご存じですか？漫画やアニメなどを舞台化したもので、1974年に始まった「ベルサイユのばら」以来、「テニスの王子様」など多くの作品が上演されてきましたが、ここ数年本数も動員数も急増中。2次元の漫画やアニメと3次元の演劇の中間だから「2.5次元」。おなじみのキャラクターが歌って踊るのを目の当たりにすると、まさに次元の壁が崩れていくかのよう。この感覚はやみつきになるかも！



マイクはどこに？

ミュージカルではオーケストラに負けない歌声をマイクを通して客席に届けます。演技をしたり踊ったりするのに、手で持つマイクは邪魔ですね。そこで使われるのがワイヤレスマイク。送信機を衣装の中に入れて、ケーブ

ルを背中に通し、豆粒ほどのマイクを顔に付けて使います。手のひらに乗る小さな機械ですが、なんとお値段は自動車並み！湿気に弱いので防湿庫で大切に保管されます。



スポットライトをあびていなくても

観劇するとき、まず目がいくのはステージの中央の登場人物たち。でもせっかく生で観るのなら、後ろのコーラスにもご注目ください。よく見ると、この人さっきも違う場面で見えたような？そう、ミュージカルでは、主要登場人物以外の出演者はひとつの演目の中でたくさんの役を演じることがよくあります。次々に衣装を着替え、それぞれの役を演じながら歌って踊って大忙し。役名のないこともしばしばですが、彼らこそ、迫力ある音楽、説得力のある舞台をつくる陰の立役者なんです。ぜひオペラグラス（双眼鏡）の力を借りて、彼らの表情まで楽しみましょう。レンタルできる劇場もありますので、事前に確認を。



子供といっしょに出かけよう！

楽しい場面はより楽しく、切ない場面はより切なく。音楽が気持ちを引っ張ってくれるミュージカルは、登場人物の思いや物語の盛り上がりがわかりやすいので、お子さんと一緒に楽しむのにもぴったりです。子ども料金が設定されている公演もありますし、身長のおさいお子さんにはクッションを貸してくれる劇場も。映画館などでも一般的となったサービスですが、実はミュージカルが最初。劇団四季の元保育士の職員の方が考案したんですって。

全国各地で観られる主な公演（2015年1月～4月）

公演名	会場	公演日程
◇リトルマーメイド	積水ハウスミュージカルシアター四季劇場[夏](東京)	上演中
◇ライオンキング	四季劇場[春](東京)、大阪四季劇場(大阪)	上演中
ボンベイドリームス	東京国際フォーラム(東京) 梅田芸術劇場メインホール(大阪)	東京:1/31～2/7 大阪:2/14～15
ラ・カージュ・オ・フォール 籠の中の道化たち	日生劇場(東京) 梅田芸術劇場メインホール(大阪)	東京:2/6～28 大阪:3/6～8
◆ミュージカル「テニスの王子様」 3rdシーズン 青学vs不動峰	TOKYO DOME CITY HALL、日本青年館大ホール(東京) 福岡、仙台、愛知、大阪、台湾、香港	2/13～5/17
モンティ・パイソンの SPAMALOT featuring SPAM	赤坂ACTシアター(東京) 森ノ宮ピロティホール(大阪) 福岡市民会館大ホール(福岡)	東京:2/16～3/1 大阪:3/6～8 福岡:3/14～15
◆デスノート The Musical	日生劇場 梅田芸術劇場(大阪) 愛知県芸術劇場大ホール(愛知)、韓国	東京:4/6～29 大阪:5/15～17 名古屋:5/23～24
レ・ミゼラブル	帝国劇場(東京) 6月から全国公演(愛知、福岡、大阪、富山、静岡)	4/17～6/1

◇…子供と一緒に楽しめる ◆…2.5次元ミュージカル

※各公演の詳細やチケット情報については公式HP、各種プレイガイドをご覧ください



Photo / Ko Hosokawa Text / Mika Asano

裏舞台 という名の 表舞台

多くの人たちによってつくられる舞台。
主役のまわりに視線を転じてみると、
至る所にプロの技が輝いている。
舞台を支える人に光を当てる。

STAGE 09

箏製作職人

Koto Craftsman

國井久吉

Kunii Kyukichi

「さくらさくら」という曲を思い浮かべるとき、おそらくその調べには箏の音色がセットになっているのではないだろうか。あるいは「春の海」。曲名にピンと来なくとも、耳にすれば「ああ、お正月に聞くあの曲」と、誰もが箏の雅やかな音を、記憶の奥底に持っていることだろう。

國井久吉さんは、その箏を作って50余年。現在は息子・清二さんと二人、埼玉県三郷市で國井琴製作所を営む。自宅に併設された工房には、大小さまざまなカンナ、そして箏になるのを待っている桐材が所狭しと並ぶ。取材に伺ったときは、甲(本体の表板)作りの最中だった。

箏は内部が空洞になっており、それに

よって音が響く。どんな音がどのように響くかは、主にこの甲の厚みで決まる。

「箏っていうのは弾いていくうちにどんどん音が出てくるようになる。昔は楽器の寿命を長くするためにあまり削らなかったの、肉厚で重かったんですよ。最近は長い時間かけて弾きこむというより、最初から音が出るものが好まれるのでそういうふうに作っています」

時折、指で木をコンコンとたたいてその響きを確認めながら、リズムカルにカンナを動かしていく。「どこまで削ればいいかはカンナの音でわかる」と、その手には迷いが無い。仕事道具の中には厚さを計測するゲージもあるが、「数値はあくまで目安。重

い木は響きにくいから薄く、逆に軽い木は厚くと、木の性質によっても変わる。カンナの音を聞いていれば、その響きが変わっていくのがわかる。カンナが『ここだよ』と教えてくれているんだと僕は思う」

久吉さんと箏作りとの出会いは19歳のとき。中学を卒業して大工の修業に入り、4年ほど経ったある日、出入りしていた和楽器製造店の番頭さんから「こういう仕事をしてみないか」と誘われた。建築士の資格がなかった久吉さんは、「大工は一生雇われたままだけど、箏職人なら腕さえあれば独立も可能」と考え、転職。生来手先が器用だったこと、カンナの扱いなどの基礎ができていたこともあって仕事の覚えは早く、2年目で先輩を追い越し、3年目には指名で仕事が入るようになり、4年目にはついに独立した。

これまで10人の弟子を育て、その中には二代目となる清二さんもいる。会社勤めも経験した清二さんだが、「父の代で終わらせてしまうのはもったいない」と、後を継ぐ決意をした。今は箏製作のほとんどを清二さんに任せているそうだが、「いつも、これでいいのかなという不安はあります。原料の桐材の買付けは父が行くので、時々自分もついて行きますが、目利きはすごく難しい」と、少ない言葉の中にこの道の難しさと父の存在の大きさをにじませる。

久吉さんに、自身の50年という職人人生

の中で、最も印象深い仕事は何ですかと聞くと、40年ほど前に作った箏の話をしてくださいました。

「原木は縦横がわからないほどの巨大な木でね。木地は固いし、杢(もく)は玉目(たまもく)でざらざらしているし、今世紀ではもうないだろうというくらいの素材でした」

今でも時折、その箏が演奏されている様子をテレビで目にする。箏の側面に施した蒔絵で自分の作ったものとわかるのだとか。製作の注文はお箏屋さん経由で入るため、職人は自分が作った箏をどんな人が弾いているか、知る機会はありません。

箏は弦が張られて初めて音を生むが、それ以前の素材となる木の選定と甲作りが最も重要と言われる。箏職人の仕事はまさにその要の部分。表舞台を支える流れの川上で、國井さん親子は黙々と箏を作る。

「全部仕上がって、ああ、きれいにできたなあと思う瞬間が一番好きだね。僕は酒が飲めないけど、もし飲めたら目の前に自分が作った箏を置いて、一杯飲みながら眺めていたいです」

※玉目…木目が渦巻きのような美しい模様になったもの。

PROFILE 1940年福島県生まれ。埼玉県三郷市で國井琴製作所を営む。全国から注文が入り、第一線で活躍する箏曲家が使う箏も数多く手がける。伝統的な製造法に基づく箏製作において、全工程を一貫して手作業で行う高度な技術を有し、平成20年度、東京都優秀技能者(東京マイスター)知事賞受賞。箏作りの道具類の考案、部品の改良等においても高い評価を受けている。國井さんの製作風景も収録されているDVD「和楽器の世界」全4作(琴、尺八・笛、和太鼓・鳴り物、三味線)はユニスター(Tel:03-5979-7876)より好評発売中。



甲の表面に「柏葉」という装飾を施しているところ。使われているのは紅木。インド原産の木で最近は入手しにくくなっているという



Photo / Kota Sugawara

邦楽の笛演奏家の家に生まれたが、ジャズやロックに憧れ、ずっと作編曲家を目指していた。夢に限界を感じてきた22歳。やらざるを得ない人生なのかなと、ゼロから古典の世界に飛び込んだ。

数年はどれも同じ曲に聞こえたが、次第に、発見の宝庫である古典に魅了される。「何百年も前の人が言っていたことが、舞台での演奏中にハッとわかる瞬間がある」外の世界にいたからこそ見える

ガツンとくる 古典の魅力を伝えたい

藤舎 推峰

Tosha Suiho

PROFILE 1979年生まれ。日本の笛(篠笛・能管)演奏家。祖父・藤舎秀逢、伯父・藤舎名生、父・中川善雄に師事。東京藝術大学大学院修了。浄観賞、同声会新人賞、アカンサス賞受賞。2004年伯父の前名である「推峰」を襲名。2011年国立劇場主催「明日をにう新進の舞踊・邦楽鑑賞会」に推挙される。国内外公演、NHK芸能番組等多数出演。谷村新司・石井竜也のライブサポートや、ヴァイオリンと邦楽のユニット「竜馬四重奏」など、多方面で活動中。

ことも。「予定調和に見える古典も、ジャズセッションのように、笛と唄・三味線が掛け合う場面がある。古典の深さ、音楽としての広さがたまらなく面白い」今は、古典を伝えていきたいと強く思う。

出前授業で邦楽器を体験した子ども達の瞳の輝きが忘れられない。「広く浅くも大切だけど、深くてガツンとくる体験は根強い感動がある。『何だかわかんないけどすごい!』ってところに訴えたい」

最近色々な公演のフライヤーが面白くなってきている。ここでは1月から4月に上演される、劇団・ダンス・演奏会などのフライヤーの中から、ちょっと気になるものを、本誌アートディレクターが選んでみた。



在外研修の成果公演 (公社)日本劇団協議会 The River

2015年2月19日(木)～2月26日(木)/東京芸術劇場 シアターイースト
作: Jez Butterworth / 翻訳: 高田曜子 / 演出: 青木 豪
デザイン: 山下浩介

青色のパールインク(ラメが入った光るインク)を実にうまく使ったフライヤー。リアルな描写と幻想とが交錯しあう世界観を演出しているのだが、シンプルなデザインと印刷だからこそ、演劇の世界観が素直に伝わってくる。右上の人影もその魅力を増しているし、大きさも絶妙で、思わず観たくなるデザイン。

新村則人=アートディレクター。1960年生まれ。主な仕事に資生堂、無印良品、エスエス製薬、東京オリンピック招致など。JAGDA・東京ADC会員。



沢井一恵 箏 リサイタル

2015年1月9日(金)/銀座 王子ホール
デザイン: 松井桂三

音楽関係のフライヤーは、好きなのが少ない。理由の一つとして、支給された写真しか使えないからである。今回も支給された写真を使っていると思うが、写真のトリミングで、実に魅力的な写真に変身させている。バックに使った水色の線も美しい箏の音色を想起させるデザインで、デザイナーの力を感じる1枚。



2000年から開催されている高校生の音楽祭「YHMF*」、募集から審査まで一連の段取り・運営を行うのは、有志で集まった高校生たち。毎年2月には、幹部を中心に、スタッフ集めと並行して参加バンドの募集を開始。2014年は全国から約80組の応募があった。決戦のステージは、テープ審査・ライブステージを通過した10組で、8月に渋谷にあるTSUTAYA O-EASTで開かれた。

YHMF2014の実行委員長、安藤圭織さんは、運営スタッフがなかなか集まらない、参加バンドの応募が締切間際でも少ない、とハラハラした日々を「社会人の練習をしてい

るみたい(笑)」と、振り返る。学校で授業を受ける日常と違い、ゼロから物事を動かしていくプロセス。「大変だったけど、つらかったぶん、頻繁に話をして他校の人ともすごく仲良くなれたし、全国から集まったバンドのみなさんとステージができたことが何よりも嬉しい」

YHMFへの応募はすべてオリジナル曲で、決戦のステージは衣裳やMCも個性豊か。オーディエンス賞の「逆境クォーツ」はカッコいい演奏とトークで会場をわかせる。準グランプリの「Vocalists」は甚平や浴衣姿の男子3人があたたかいハーモニーを奏でた。グランプリの「Da.Vinci」

はお年玉で買ったというスーツでノリノリのハードロック! 前年敗れた悔しさをバネに臨んだ思いをぶつけていた。

進行に欠かせない映像や、バンドをつなぐトークもすべてスタッフの高校生が考える。司会班の久富駿介さんは、「来場者に楽しんでもらいたいという一心で準備を進めるうちに、いろんな視点での見方ができるようになった」とみんなの成長を実感する。

「人がつながる機会が思い出になる」そうかみしめる高校生たちの熱気溢れるステージは、これからも受け継がれていく。

*ヨコハマ・ハイスクール・ミュージック・フェスティバルとして始まったが、2011年より会場はTSUTAYA O-EASTに。当時の名称のみ継承。



エッセイ

竹中統一「一滴の恵み」

Illustration / Asuka Kitahara

私たちの会社は、建築を専業とし、設計から施工までを一貫して行っている建設会社です。手掛ける建築物は、美術館や学校・ホテル・商業施設から住宅・工場にまで多岐にわたります。人間が生活するすべての空間を対象にしているといっても過言ではありません。ところで、その空間を大きく二つに分けるとしたら、どのような分け方があるでしょうか？いろいろな分け方がありますが、建築界ではよく「日常」空間と「非日常」空間に分類します。これは建築に限ったことではないのかもしれませんが。住宅や職場空間など日常生活に密接に関係している空間と、映画館や美術館など特別な目的を持って経験する空間とは明らかに区別しなければなりません。一般的には「非日常＝特別なハレの場」は、刺激的で日頃味わえない感動を与えてくれるものと考えられています。

2014年10月に竹中大道工芸館が新神戸駅前に規模を大きくして移転・開館しました。実はこの敷地は、私の父や母が住み、私も幼少期を過ごした場所でした。新築にあたり、既存の庭をできるだけ残し、母が建てました茶室も残しました。この茶室は大徳寺玉林院の茶室「蓑庵」を模して造られたものです。母はよく日々の生活にこそ豊かさを宿すべきだといっておりました。

日常生活という時間の中に茶会という「非日常」の時間を組み入れることによって、歓び、感動、新しい出会いや発見といった刺激を受け、五感や人間としての深みを磨いていたのではないかと思います。

この茶室は“一滴庵”と名付けられています。その名の由来は、一滴の雨粒が大地に浸み込み、土が蘇り、一粒の種から芽が出て大樹となる。その大樹が実をつけ、多くの命が育まれる。

たとえ一滴でも、大きな可能性を秘めていることから、感謝の気持ちも込めてつけられた名前です。“一期一会”という言葉がありますが、ちょっとした出会いが人生を左右するようなことは珍しいことではありません。日本には、水墨画や浮世絵、あるいは俳句など、表現はシンプルでも本質に迫ることのできる文化があります。“Less is More”という建築家ミース・ファンデルローエの言葉も同じ意味かもしれません。光りに溢れ、多言な表現がもてはやされる現代社会に、ちょっと原点に立ち戻ってみるのもいいかもしれませんね。

株式会社竹中工務店 取締役会長CEO。1942年生まれ。甲南大学経済学部卒業後、竹中工務店入社。70年ミシガン州立大学大学院経営学部修士課程卒業。万博工事本部、企画室などを経て、73年取締役、77年常務取締役、80年取締役社長、2013年より現職。趣味はスキー、登山。

NEWS

俳優座劇場 編

『伊藤熹朔 舞台美術の巨人』2,268円(税込)

演劇全般、日本映画を美術面から支え、テレビ美術の基礎づくりにも貢献した伊藤熹朔。彼の設立した俳優座劇場開場60周年を記念し、当時の新聞・雑誌等でのインタビューをふまえ、その人間像に迫る1冊。約300枚の装置図も掲載。(NHK出版／俳優座劇場まで)



ライブ専用シアター「豊洲PIT(ピット)」がOPEN

豊洲に新しくライブ専用シアター「豊洲PIT(ピット)」(3,100名／スタンディング)が10/17にOPEN。設置・運営は、エンターテインメントを通じて東日本大震災の復興支援を目指す、一般社団法人チームスマイル。「PIT」は「Power Into Tohoku!」の略。2015年には福島、宮城、岩手にも「PIT」が開設される予定です。



PICK UP

撮影こぼれ話

今回表紙&特集ページを飾ったカナリア。人慣れしていないため鳥籠から出したとたん飛び回り、予想以上の大苦戦。捕まえては逃げ、捕まえては逃げ、が続きます。長引くと弱ってしまうため、動物好きのスタッフは戦々恐々。撮影開始から30分、状況に慣れたのか、はたまた疲れたのか、ようやく落ち着いてきたところをハイチーズ! 小さくて丸っこいシルエットによちよち歩きも愛らしく、すっかりカナリア・ファンになってしまいました。

PRESENT

A



いきものがかりサイン入りポスター 3名様

29枚目シングル「GOLDEN GIRL」の非売ポスター。このポスターを壁に貼って、ニューアルバムを聴けば、ライブ会場にいる気分が味わえるかも?

B



国本武春さんサイン入り手ぬぐい 5名様

富士山と国本武春さんのイラストが入った手ぬぐい。何ごともまずは形から、日常的に日本の伝統にふれてみては?

[プレゼント応募方法] SANZUIウェブサイト (<http://www.cpra.jp/sanzui>) からご応募いただくか、はがきに①ご希望のプレゼント②氏名③年齢④性別⑤住所⑥電話番号またはメールアドレス⑦SANZUI入手場所⑧誌面の感想を書いて「〒163-1466 新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー11階 芸団協広報課」までお送りください。[締切] 3/31(火)(必着)

*当選の発表は、プレゼントの発送をもって代えさせていただきます。



編集後記

毎朝ほぼ決まった時刻に元素周期表が目に入る。「水兵リーベ僕の船」のあれである。元素は宇宙から人体に至るまで全ての物を構成する基本単位であり、それぞれの元素が持つ物理的または化学的性質を似たもの同士が並ぶように決められた規則に従って配列した表である。周期表は、かつての科学者など無数の人たちによる知の結晶であり、現在では各元素のふるまいを説明する実に、美しく整理され洗練された表となっている。芸能の世界も同じだと思う。芸を究めたい先人たちが精進し、洗練され美の結晶となることで、現在まで伝承され、美しい形に整理されてきた。科学も芸能も人や物質の営みを磨くことで、美しく収斂される。SANZUIを通じて「美」の本質を届けたい。(井上滋)

【お詫びと訂正】

前号「SANZUI vol.05_2014 autumn」本文中に誤りがありました。正しくは以下の通りです。

27ページ「ロングインタビュー」(誤) 吉田剛太郎さん (正) 吉田鋼太郎さん
読者および関係者のみなさまにご迷惑をお掛けしましたこととお詫びするとともに、ここに訂正いたします。※ウェブサイトには修正版を掲載しております。

WEBサイト: <http://www.cpra.jp/sanzui>
Facebook: <https://www.facebook.com/sanzui.news>
Twitter: @SANZUI_info

発行:公益社団法人 日本芸能実演家団体協議会
実演家著作隣接権センター(芸団協CPRA)
発行日:2015年1月1日
発行人・編集人:松武秀樹(芸団協常務理事・芸団協CPRA法制広報委員会副委員長)
編集顧問:大笹吉雄(演劇評論家)
編集:芸団協CPRA法制広報委員会 SANZUI編集プロジェクトチーム
上野博(音制連)、丸山ひでみ(PRE)、鈴木明文(音事協)、井上滋、榎野睦子、大井優子、小泉美樹、川崎佑(芸団協CPRA)
アートディレクター:新村則人
デザイナー:庭野広祐(新村デザイン事務所)
コピーライター:二藤正和
協力:ペットフォレスト あぎみ野店、一般社団法人全日本合唱連盟、国立劇場、株式会社サンフォニックス、And A フラッグス新宿店、アドナストミュージアム、ETHOSENS of whitesauce、Venom TOKYO、アパハウス エル エ エル 銀座マロニエゲート店、mimis

芸団協・実演家著作隣接権センター(CPRA)とは

CPRAは実演家の権利処理業務を適正に行うための専門機関として、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会(芸団協)と関係団体の協力により1993年に発足しました。レコードやCDを放送で使ったり、レンタルしたり、テレビ番組をDVD化するとき等の権利処理と使用料等の徴収を行い、委任権利者に分配しています。それに留まらず、広く実演芸術の円滑な流通と権利の擁護を目的として幅広い活動を展開しています。<http://www.cpra.jp>

小田和正

Oda Kazumasa

Text / Makoto Hasegawa Photo / Ko Hosokawa

音楽は自分が選んだもの。
その音楽に何もないってことはない
強く思っている。



音楽が持っている力とはとてつもない。
一瞬にして、その曲を聴いていた過去に
連れて行ってくれる。



新しい武器を持って、
勝ちにいきたい

2014年は精力的に全国ツアーを展開。繊細さと強靱さとを備えた伸びやかな歌声が胸を揺さぶる。歌を届けるんだという強い意志と熱い思いも伝わってくる。こんな67歳そうはいない。このパワーはどこから来るのだろうか？

外で寒いのに、来てくれているんだから、客席の一番後ろまで花道を作ろうってことになり、やったら、みんな、ホントに喜んでくれて(笑)。そんなにうれしいの？ってくらい(笑)。こんなに喜んでもらえるなら、どんどん行くべきじゃないかと。近づく、こっちも発見があるわけ。そうか、若い子は親に連れられて来てるのかとか、このおっさん、どうして来てるんだらうとか(笑)。

——ライブをやる楽しみ、醍醐味はどのようなところにありますか？

——ライブで歌う時、大事にしていることという？

自分としては、コンサート、楽しいよね。ってところからはスタートしていないんですよ。みんなが待っていてくれる場所に行って、歌ったら、みんなが喜んでくれて、結果として、オレも楽しいや。ってことになるんだけど、やる前はみんなが楽しんでくれるだろうかって不安がまずある。パターン化したステージはやりたくないし、新しい武器を持って、勝ちにいきたいわけじゃない？ 武器って曲しかないから、その準備がまず大変で。戦えない武器を持ってもしょうがない。

ピッチのことを考えて歌ってる。ちゃんと歌わないと、マイナスされることが多くなって、届かなくなるから。自分もうまく歌えた時のほうが次の曲に乗っていきけるしね。心を込めて歌っても、入れ込みすぎると、2日目は同じふうには歌えないし、続けることで演じ始めるのは嫌だから。毎回、まっさらなところから始めよう。

——それって、すごいことですね。

——疲れますね(笑)。まっさらってことは保証されてないってことだから。盛り上がりを作っていけるはずだって信じてスタートするけれど、大丈夫かなって、毎回、不安との闘い。

——実際にやってみての手応えは？

——歌声、伸びやかでタフです。でもトレーニングはしてないんですよ。特別なことはしてない。こんな高音、ライブで出ることになって思うんだけど、お客さんの前に出ると、あつという間に出る。アドレナリンの仕業だな(笑)。

——実際の前にやると、スタジオでやる音像とはまた違う感じになって、アルバムを作った時点から先に進んでいくイメージはあった。お客さん、喜んでるな、良かったなって。

——新作『小田日和』にはシンプルでありながらも、聴き手に寄り添っている曲がたくさん入っていますが、作曲の意識で変化した点は？

——ライブ中に客席の中に入っている盛り上げる場面があります。以前はステージを降りなかったと思うのですが、いつ頃から始めたのですか？

——タイアップ曲の場合は、オレに求めるイメージがあった上で頼んでくることが多いじゃない？ そこで裏切って、最初にやりだしたのは21世紀になる時に八景島でやった年越しライブ。野

——忘れていないことを伝えることが大事だなと思った

——書いていくわけ。それはそれで嫌い



「聴きに来てくれる人がいるうちは歌え！」
って言われて、

ああ、そうかってちょっと納得した。

じゃないし、作業も進むし、アルバムを作る上でも助かるんだけど、そればかりもどうかって。たとえば、「ラブ・ストーリーは突然に」みたいなのがオレの作風だと思われているけれど、自分が音楽を好きで始めたころに求めているものは違うわけで、ずっと遡ると、こういう曲が好きだったんだってところに行き当たったんだよ。

—— こういう曲というの？

スタンダードっぽい曲。当時はそういう曲がどんな構造、コードなのかもわからずに聴いていたんだけど、今、振り返ってみると、こんなふうになってたから気持ち良かったんだなって発見がある。で、ポール・サイモンやP.M.がやってたようなシンブルな音楽を自分の手でも作りたくなった。オフコース時代、軟弱だってさんざん叩かれて、ロックっぽい方向へ行った時期もあったけど、今は自分のイメージした曲を作りたい気持ちが強い。

—— 新作から70年代A & Mやバカラックに共通する匂いも感じました。

バカラック、いいよね。ライブを観たら、すげえ良かった。スタンダード的な大人っぽい機微ってあるじゃない？ ちょっと距離を置いた感じ。自分もそういうのを作って歌いたいな。

—— 「その日が来るまで」のように震災を踏まえた曲も入っていますが、震災が起こって、どう感じましたか？

多くの人がそうだったように、無力だと思えばかりだった。そんなことを考える間もなく、現地へ行って体を動かした人たちもいたけれど、オレは何もできなかったし、何をすべきなのかわからなかった。ツアーが予定されていたので、やめちゃいけないんじゃないか、お客さんが来てくれるならやろうって、数か月遅れて、長野からスタートした。初日のMCは緊張したね。ライブで盛りあがっているのか、笑顔になっているのか、いろんなことが頭に浮かんだし。でも被災していないところが応援していくべきだなって。

—— 「その日が来るまで」はどんなきっかけから生まれたんですか？

「元気出して」とか「頑張ろう」とか、見守ってる「じゃないなって。常に見守ることなんてできるわけないし、一番つらいのは忘れられることなんじゃないか」って、君が好き」という言葉に思いを託して作っていった。泣いてるお客さんがいると、ありがたいけど、そこまで背負えないって思ったりもするんだけどね。

—— 音楽の力ってすごいなって感じる機会も増えた気がします。

音楽って不思議なもので、自分がのめり込んでいった時のことを考えても、すごい力があると思うね。昔の曲を聴いた時、一瞬で過去の瞬間に戻るでしょ。あれはすごい力だと思う。—— 歌い手として、音楽の素晴らしさを感じる瞬間は？

楽屋で気の知れたアーティストと一緒に「あの曲、こうなってるんだな」って声を合わせて歌うのは楽しいね。それが原点。ベースのネーサン・イーストとバカラックで一番好きな曲はなんだった話になって、ふたりとも「One Less Bell to Answer」を挙げたんだよ。

「お前、なんでそんな歌、知ってるんだ？」って。その曲が70ころのアメリカの刑事物のドラマで使われていて、フィフス・デイメンションが歌うシーンが出てくるんだけど、あいつもそのシーンを知ってて、同じようにこの曲にたどり着いたことにびっくりした。『音楽は国境を越える』と言うけど、歌詞のないものはともかく、あるものはそう簡単に国境を越えないぞとオレは思っていたからね。でもその時は一緒に歌って盛りあがって楽しかったね。

最近、仕事をリタイアした同級生を観察している

—— こんなに精力的にツアーをやっている同年代はそうはいないと思うのですが、引退を考えることは？

仕事をリタイアした同級生がいつばいるから、楽しく生きてるか、観察してるころ(笑)。やることなくて寂しいとか、全然問題ないとか、いろいろ説がある。オレはどっちかなって。

—— どっちだと思えますか？

オレは辞めても平気なタイプだと思う(笑)。ゴルフやったり、空を眺めたり、スタンダード聴いたりして過ごす。

—— 曲を作りたくなるのでは？ それにライブを待っている人がいるし、辞めるタイミングはないのでは？

医者をやってる先輩がツアーを観に来てくれた時に今後の話になって、「医者、いつやめるの？」って聞いたら、「患者が来るうちはやる」って言うわけさ。「お前も聴きに来てくれる人がいるうちは歌え」って。ああ、そうかってちょっと納得したんだけど。

—— 小田さんにとって音楽とは？

音楽は自分が選んだものという意識が一番強いかな。小学校から大学まで、音楽とは違う勉強をしていて、それを辞めて、なんのあてもなく音楽を選んできたわけだから。

—— それだけやりがいのあるものだということなんですよ。

加藤和彦さんが亡くなった時、「音楽には何もなかった」という言葉を残している。先日、吉田拓郎と話す機会があったんだけど、「あれだけのものを残した加藤さんがそんなことを言うなんて、寂しいなあ」って。音楽をとことん追求したからこそ、音楽は夢のようなものというニュアンスであんな言葉になったのかもしれないけど、オレも拓郎も同じ気持ちだった。「音楽には何もなかったことはないよね」って。そこは強く思っていますね。

PROFILE シンガーソングライター。1947年9月20日生まれ。神奈川県横浜市出身。1970年にオフコースとしてデビューして1989年に解散。その後、ソロ活動を本格化。ラブ・ストーリーは突然に「キラキラ」などヒット曲多数。2011年〜2012年の全国ツアーで国内ソロ・アーティスト歴代最多動員数記録を更新。2014年7月、最新アルバム『小田日和』発表。10月にツアーを終えたばかりだが、2015年1月から追加ツアー『KAZUMASA ODA TOUR 2014〜2015』開始予定。

A photograph of Masahiro Oda on a stage. He is wearing a grey sweater and dark pants, holding a microphone to his mouth. The stage is dark with blue and white spotlights. A ladder is visible on the left side of the frame.

ロングインタビュー
小田和正